

大陸(朝鮮)

平壤から

欧露へ、舞鶴へ

秋田県 樋口 健次郎

私は、大正十三(一九二四)年二月二〇日、兵庫朝来郡生野町字口銀谷(クチカナヤ)で生まれました。徴集年度は昭和十八(一九四三)年度で第一乙種合格でした。当時の私の家庭は

父 健在 生野鉦山社員
母 健在 主婦
兄(長男) 健在 会社員
私(二男) 健在 秋田県鉦山社員(選鉦)
姉(長女) 健在 病院勤務

妹(二女) 健在 工場へ勤勞奉仕
という状態でした。

昭和十九年七月、姫路の野砲連隊へ現役入營です。その時は見送り、旗の波、激励も何もない、ヒッソリと入營しました。姫路の部隊には約一週間、お客様として在隊しました。勿論外地へ出征の予定でしたためか、例のビンタ、馬の世話も一切無く、特に印象に残る苦勞はありませんでした。約一週間して、姫路の野砲第五十一部隊より、朝鮮平壤の野砲兵第四十七部隊へ転属になりました。

早朝、姫路の部隊発、国鉄の姫路駅より列車輸送、下関を経て博多へ。博多より約三、〇〇〇トンの船で釜山へ。釜山より平壤へは約十時間。

その間、特記事項はなし。砲兵第四十七部隊へ到着。平壤の兵舎はコンクリート製のしっかりした建物でした。ここで六カ月間の初年兵教育を受けました。

まず、野砲兵の基本教育は

- 一 砲手
- 二 通信
- 三 御者（ギョシヤ）
- 四 観測

に区分されます。私は砲手に指名されました。砲手には一番砲手、二番砲手、三、四、五、六番砲手までありました。私は二番砲手でした。野砲隊ですから勿論馬がおります。馬の世話をします。砲手、通信、御者、観測の区別なく全員馬の世話、手入れをさせられました。

馬にはクセの悪い馬がいて

- 一 噛みつく
- 二 蹴る
- 三 抱きこむ

の三種類ありました。私も噛まれ、蹴られた事がありました。が、いずれも大したこともなく辛くありませんでした。中には運悪く大怪我になって大変な苦勞をした戦友もありました。とにかく部隊に馬がいるといかないとではまさに天地の差があり、自分自身の世話をする前に、まず馬の手入れが絶対です。要領の悪い、動作の鈍い者は洗面も食事もできぬという地獄社会です。

私も入隊前は馬には一切縁がなかったのですが、入隊後は馬とのつきあいはマアマア何とかこなせて喜んでおります。

輓馬の砲兵隊には、十榴と十五榴がありました。私は第二中隊第一班へ入り、十榴の担当でした。空砲射撃はやりましたが、実弾射撃の経験はありません。

昭和十九年七月より昭和二十年一月までが新兵教育の期間でした。話によく出るビンタの件については、衆知の通りで、私も新兵相応の仕打ちを

受けました。でもよく考えると、私の場合は皆の者より少ないと思っています。良い先輩に恵まれたお陰のようでした。知り合いの班長や将校がいるとの理由だったようです。馬の世話、ビンタと運のよい状態に恵まれて本当に幸運であったと感謝しております。